ずっと日本語に関わりたい

「ティーネ」の愛称で親しまれ、市の国際交流員として活躍してきたクリスティーネ・バウアーさんが、９月末でドイツへ帰国します。イベントや学校訪問などを通して市民の皆さんへドイツの文化を紹介する取り組みや通訳、翻訳の業務など、沼田で過ごした２年間を振り返ります。

クリスティーネ・バウアーさん

ドイツミュンヘン市出身、28 歳。漢字に興味を持ったことがきっかけで、大学では日本学を専攻。日本でインターンシップなどを経験し、2018 年８月から市の国際交流員として、ドイツの文化を紹介する事業などを担当

ドイツに親しんで

料理教室を毎月開催し、和気あいあいとした雰囲気の中、参加者にはドイツの家庭料理を身近に感じてもらうことができました。学校訪問では、子どもたちの目線に立って、伝統文化を紹介したり、イベントではクイズを出題して、お菓子をプレゼントしたりと、ドイツに興味を持ってもらえるようさまざまな切り口で交流を図ってきました。ドイツを発祥とする「クリスマスマーケット」も本市で初めて開催。準備から携わり、本場のホットワインやクリスマス雑貨などの露店が並び、イベントの最後には市民参加による１００人ゴスペルで感動のフィナーレを迎えました。

一方、ドイツ語・英語・日本語の３カ国語が堪能で、通訳や翻訳でも活躍。本市は東京２０２０オリンピック・パラリンピックにおいてドイツフェンシングチームの事前合宿地となっており、ドイツフェンシング協会のボーケル会長訪問の際には通訳を担当し、大会に向けた調整などに重要な役割を担ってきました。地震が多い日本で、いざというときに選手が落ち着いて行動できるようにと、沼田中学校の生徒たちがパンフレットを作成する際にも、英語への翻訳をサポートしました。

このほか、ＦＭＯＺＥでは週１回